西中学校区

交流事業として、 実施できたこと	・小中一貫教育支援教員（中学校・数学）の配置による小学校教員（算数）とのT・T授業 ・中学校入学予定児童授業参観（中学校教員） ・合唱の交流（中学生が小学校を訪問） ・合同あいさつ運動（中学生が小学校で実施） ・小中合同引き取り訓練の実施 ・小中一貫連絡協議会（年3回）
乗り入れ授業の教科・領域 （算数・数学）	【成果と課題】 〇中一ギャップの軽減 ・中学校の教員が授業を行うことで、専門性を活かした指導ができるとともに、中学校入学 への不安を軽減することができている。 ・特に日頃の6年生の様子を中学校教員が見ることで、学習状況やつまずきについて知る ことができる。また、様々な配慮を要する児童について、細かく観察し配慮事項等を確認 することができている。 ＝課題＝ ・小中学校の教員がともに多忙な中で、事前に十分な打ち合わせをして、計画的に授業を 進めたり、支援の入り方を確認したりする打合せ時間を確保することが難しい。 ・小学校においては、日常の教科学習の実施、行事等に関わる活動時間の設定等、時間 割調整が必要な中で、週１日乗り入れ授業・共同授業の実施時間を確保し、単元の進度 等も考慮して効果的なものにすることが非常に難しい。 ・中学校においても、日常の行事やさまざまな活動等がある中で、コンスタントに毎週同じ
カリキュラム編成に取り組んでいる教科・領域等 （算数・数学）	【成果と課題】 〇９年間を見通した（教科）指導の実践（カリキュラムの研究） ・小中学校間で、算数・数学の指導方法について情報交換を行い、特に、小学校教員は 中学につながる学習内容の指導について、中学校教員は中学で教える内容の基礎の 積み上げの指導について、互いに学ぶことで、９年間を見通した指導のイメージ共有を 進めることができた。 ・児童生徒に生ずる算数・数学のつまずきについて、共同で分析し、学習内容の結びつ きを整理して、つまずきの解消へのアプローチ方法とつまずきが生じない指導の工夫 について、検討をすすめている。 ＝課題＝ ・検討実施時間確保の困難さ 課題に対して小中の教員が共同で取り組むには、話合いをする時間の確保が必要で

令和3年度の取組について	【成果と課題】 〇小中一貫支援教員の配置で、円滑に乗り入れ授業や小学校訪問を行うことができた。 〇算数・数学の授業連携が進み、カリキュラム検討も始めることができた。 〇小中一貫連絡協議会を実施することで、連携した取組の内容や進め方を3校で確認す ることができた。 〇いじめのない学校づくり子ども会議の取組と合わせて、新たなスマホのルール作りを共 同で始めることができた。 ＝課題＝ ・コロナ禍もあり、3校の教職員の交流や研修が困難であったため、共通で進めていると いう意識を持つことが難しかった。 ・連絡協議会で確認された内容について、校内で教職員が共通理解する場面の設定と 意識づけが難しかった。 ・全体として目的、内容の共有が足りず、先生方の意欲を高めるのに十分ではなかった。 また、時間に追われる日々から、負担感に目が行って、積極的・創造的な取組を生
令和4年度に向けて	〇全体として 小中一貫教育推進に対する目的意識の向上。目的の明確化、内容の精選、 計画的な実施。 ・算数・数学の教科授業の連携の深化 効率化を視野に入れながら、授業・打合せ・課題検討を計画的に実施していくことで、内容の深化を図る。 ・9年間を見通したカリキュラム検討について、「分数」以外にも単元・内容をたてて 進めていく。 ・連携行事の内容の深化、精選 それぞれの行事について、目的をさらに明確化する中で、その効果を高める。 担当の教員間での検討を進めることで、教員間の交流と連携を深める。 ・アセスを使った児童・生徒の実態把握の推進 西中学校区としてアセスを使った児童生徒の実態把握を進め、視点の共有を図るとともに、対応策について、共通理解を進める。